

四季成り性イチゴ主要 3 品種の春植え栽培における培養液濃度

【 1 成果の要約】

- (1) 四季成り性イチゴ「なつあかり」「エッチェス-138」「サマールビー」の春植え栽培における培養液濃度の適正範囲は、EC 濃度で 0.4~0.6dS/m です。
- (2) 栽培終了まで EC 濃度 0.4dS/m の一定濃度とすることで、収量が安定します。また、2010 年のような夏季高温年では EC 濃度が高くなると上物収量が低下する傾向があります。
- (3) 培養液を EC0.6dS/m より高い濃度で管理すると、収量低下や葉先枯れが発生する場合があります（データ略）。

【 2 成果の内容】

表 試験区の構成（2009～2010 年）

区	培養液濃度（dS/m）		
	定植～第 1 花房開花	～第 2 花房開花期	第 3 花房開花以降
4-4-4	0.4	0.4	0.4
4-5-6	0.4	0.5	0.6
4-6-6	0.4	0.6	0.6
4-6-8	0.4	0.6	0.8

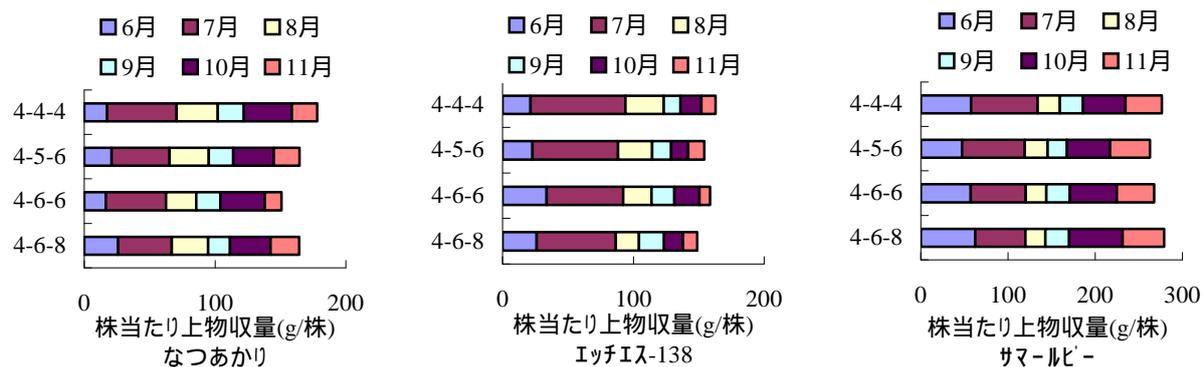


図 培養液濃度と月別上物収量の推移(2009～2010 年平均)

【 3 留意事項】

- (1) 畑土粗殻混合培地を使用した場合の結果で、有機質培地を用いた場合は、培地による窒素飢餓の影響を考慮して培養液濃度を決定して下さい。
- (2) 原水の EC 値を含む濃度で示しており、かん水に使用した原水の EC 濃度は平均で 0.016dS/m です。原水 EC 値が高い場合や pH 調整剤を添加している場合は、それらの影響による EC 値の上昇分を考慮する必要があります。
- (3) 本試験では OKF-3 の 1 液方式による点滴かん水施肥とし、EC0.4~0.6dS/m とした場合の希釈倍率は約 3000~2000 倍希釈（46~70mgN/L）に相当します（原水 EC 含まず）。

【 4 適応対象】

四季成りイチゴ生産者、指導機関